

“21世紀に ふさわしいSC”の 実現に向けて



代表取締役社長
鯛 洋三

1969年の設立以来、私どもダイヤモンドシティは、その企業理念である「私達は、商業専門ディベロッパーのパイオニアとしての誇りを持ち、地域社会の発展とお客さまの生活文化の向上に貢献する企業として、ショッピングセンターの創造に挑戦し続けます。」に忠実な活動を展開し、時代とともに変化する地域社会やお客さまの動向を見据え、常に時代の一步先を行く文化的な生活の実現や地域社会の発展に貢献してまいりました。

そして現在では、単に商品やサービスを提供するだけでなく心から豊かさを実感でき、地域にとって欠かすことのできない“まち”機能を有した“21世紀にふさわしいSC”の実現をめざしています。

中期経営計画の着実な進捗

まずは、私どもの業績が順調に推移していることをお知らせいたします。現在私どもは、“21世紀にふさわしいSC”の実現に向けた第一歩として、「中期経営計画(DC100)」(対象期間:2005年3月から2008年2月まで)を力強く推進しています。その初年度となる2006年2月期は、営業収入423億円、経常利益105億円、当期純利益68億円と、当初掲げていた数値目標をすべてクリアいたしました。

この「DC100」は、単に業績拡大だけを目標としたものではありません。豊かな時間とゆとりのある空間を提供できるSCの新設(計画期間中に新たに7ヶ所オープン予定)、既存SCのさらなる魅力向上、そしてすべてのお客さまに“安全・安心・快適”をご提供できるサービスの質の向上なども目標に掲げており、むしろ、こうしたSCとしての進化を着実に進めることで、結果として業績の伸長につなげていく考えです。また「DC100」の2年目となる今期は、東京都の立川市・武蔵村山市、大阪市の鶴見区、宮城県の名取市に3つのSCを新たにオープンさせるとともに、営業収入470億円、経常利益127億円、当期純利益75億円を目標に掲げ、その達成に邁進しています。

多方面からのSCの進化

私どものSCは、常に進化しています。その象徴的な存在が、2005年10月、熊本県に新規オープンさせた「ダイヤモンドシティ・クレア」です。ここでは、商業施設としては日本初となる本格的なユニバーサルデザインをすべての設備に導入し、ハンディキャップをお持ちの方々や高齢者の方々だけでなく、健常者の方々にとっても使いやすいSCを具現化いたしました。（「ダイヤモンドシティ・クレア」の主要なユニバーサルデザインについては、16頁をご参照ください。）

また、既存SCも進化し続けています。2004年にオープンした6SCをはじめ多くのSCで、その高いサービスレベルや施設のクオリティへの評価が高まっており、当初の想定よりも広い範囲のお客さまにご愛顧頂けるSCへと進化しています。しかし一方で、交通混雑や駐車場内動線のわかりにくさなど、お客さまよりお叱りのお言葉を頂いたケースもあります。これらに対し、例えば「ダイヤモンドシティ・プラウ」では、道路用地を自ら手当し拡張することで混雑緩和を図るとともに、駐車場内動線の見直しを実施するなど、一つひとつ問題の解消に真摯に努めています。

この他既存SCでは、その新鮮さを保つため、核テナントや専門店に対し商品の取り揃えやディスプレイ方法の見直しを提案したり、さらにはリニューアルの実施等を恒常的に行っています。特に、2005年7月にリニューアルオープンした「ダイヤモンドシティ・バリュー」（旧名：「熊本南ショッピングセンター」）では、SC名称の変更とともに、新たな業態として、不変の価値（バリュー）を持つ上質な商品をご提供できるテナントを誘致し、高いご評価を得ることができました。

成長の土台となるCSR意識の浸透

CSR意識の浸透なくして、私どもの社業の発展、あるいは「DC100」の目標達成はありえません。

なぜなら、SCの開発・管理・運営とは、準公共事業、地域密着型ビジネスの色彩が極めて強く、CSR活動とは、業務を遂行する上での基盤要件であると認識しているからです。こうした認識は、私どもの「経営理念」、「行動規範」、「環境方針」あるいは、「愛するまち」を、あなたとつくる。」というブランド・ビジョン等に現れており、これら日常業務の指針すべてが、CSR活動の方向性を示したものとなっています。だからこそすべてのスタッフ、テナントで働く方々に、これらの指針を理解してもらい、意識の共有とそれらに沿った行動の実践を促すことに力を注いでいます。

特に現在は、急速に増加しているスタッフおよびテナント等で働く方々に、如何に効率的かつ実効性のある形で、CSR意識を浸透させるかが課題となっています。部分最適ではなく全体最適を視野に入れながら、CSR意識の浸透を図ることが肝要と考えています。そのため私どもは、個々人のCSR意識の一層の向上を図ると同時に、全社足並みがそろった形での成長を果たしていくため、部門を越えたコミュニケーションの活性化を力強く進めています。

具体的には、各SCで実施される植樹祭・育樹祭活動への本社役職員の参加や、献血やクリーン活動等のSCで実施されるイベントへの参画を奨励し、小さな活動であっても“自主的に参加すること”を通してCSR意識の一層の向上を促しています。また、2005年3月より業務遂行上の問題を横断的な視点から考える場として、タスクフォース（TF）の設置を本格化させました。このTFは、課題の早期解消だけでなく、スタッフ間のコミュニケーションの活性化も目的としており、2006年2月期は「クレームゼロTF」、「クロージング（閉店）TF」、「共用部使用ガイドラインTF」などの8つが設置され、ノウハウの全社レベルでの共有に大きな効果を受けました。また一部はその機能が本部内のセクションに組み込まれることにもなりました。また今期は、

異業種とのコラボレーションの推進やテナントスタッフのモチベーションアップ等を目的とした新規TFの設置や、新規開発案件、大型のリニューアル案件に対し初期の計画段階から市場環境、投資採算等について種々な角度から専門スタッフが議論し、その事業内容を検討する「フィージビリティ・スタディ・チーム」を創設しています。

地域に愛されるSC

CSR意識の浸透という基盤要件の強化と平行し、私どもは、地域に愛されるSCとなるための活動を継続的に進めています。そのひとつが地域生活の利便性向上、ゴミ問題の解消と地域の美化、治安向上等、地域の皆さまの期待に応じていく“まち”機能の充実です。

そのため最近では、首長との情報交換、警察署・消防署への定期的な報告の実施等、地域とのコミュニケーションを一層充実させ、行政サービス機関や交番スペースの確保と誘致、保育施設等の誘致、音楽演奏会などの文化的行事の実施等、地域の要望の強い“まち”機能の充実に積極的にお応えしています。また今後は、非常時に備えたバルーンシェルターの導入なども検討しています。

一方施設面では、ユニバーサルデザインの積極導入だけでなく、より環境負荷の少ない設備の導入等、常により良いものの導入に挑戦し続けています。また、ユニバーサルデザインに関しては、地元以外の方々からもこうした取り組みに対する激励のお言葉を多数頂戴しており、私どもとしては、ダイヤモンドシティのSCにとどまらず、より多くの企業や施設にも広がるようなサポートを実施していきたいと考えています。

“21世紀にふさわしいSC”の実現に向けて

私どもの最終的な存在価値は、生活文化の向上をもたらす力があるか否かといえます。既存の業務ノウハウを受け継ぐことでも規模の大きさを求めること



でもありません。大切なことは、いかに環境が変化しても、常に住民の皆さまや地域の現状の変化を的確に把握し、「生活文化の向上のために何ができるか」を考えるセンスを磨き、行動し続けることと考えます。嬉しいことに私どものスタッフは、夢を持ちアクティブに働く人材ばかりです。だからこそ、こうしたスタッフに無限の挑戦機会を提供しながら、そのセンスを磨きあげることに注力しています。

また私どもは、2006年4月にイオン株式会社の当社株式の公開買付けに賛同し、同年5月11日より同社の子会社となりました。SC事業を展開する私どもにとりましては、同社の持つ高い小売ノウハウや消費トレンドの把握力、さらには海外への展開力などは、高いシナジー効果が期待できるだけでなく、小売業としてのCSR活動を一層活性化する上で極めて有利な環境を整えることにもつながります。

今、私どもは、“21世紀にふさわしいSC”の実現という目標に向かい歩き始めたばかりです。そして、こうした恵まれた人材と環境を活かすとともに、地道な努力を積み重ねていくことで、目標は必ず実現できると確信しています。

今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2006年7月

株式会社 ダイヤモンドシティ
代表取締役社長